

がん治療における口腔内管理について

がんの治療を受けられる方には、様々な口腔内トラブルが発生する事があります。そこで、当院口腔外科(以下当科)では、出来る限り口腔内トラブルが発生しないよう、治療開始前から歯科医師、歯科衛生士が介入しています。(※「周術期等口腔機能管理料」として保険算定が可能です。)

①手術…特に口腔や咽頭、食道や肺など、口腔と近い部位の手術では口腔内細菌による創部感染のリスクがあります。また、汚染された口腔内で挿管された場合、誤嚥性肺炎発症の可能性もあります。他に、動揺歯や不安定な差し歯などがあると、挿管時に脱落し誤飲してしまうといった事故にも繋がりがねません。当科では手術の前に口腔内を確認させて頂き、動揺歯の抜歯や固定、口腔内清掃等をかかりつけ歯科医院と連携して実施しています。手術に関してはがんに限らず、全ての全身麻酔下手術症例に対応しています。

②化学療法、放射線治療…化学療法による口腔内有害事象には、口腔粘膜炎、口腔カンジダ症、菌性感染症など、多岐に渡ります。重度歯周病等の菌性感染症は、骨髄抑制期に重篤な菌性顎炎に移行する可能性があり、時には生命が脅かされる場合もあります。化学療法開始前に口腔内を清掃し、感染源に成り得る歯を抜歯する事で、口腔内からの感染リスクを大幅に減少させる事が出来ます。放射線治療の場合も、特に頭頸部への放射線治療での口腔粘膜炎発症率は非常に高く、経口摂取が困難となってしまう場合もあります。当科では化学療法や放射線治療開始前に口腔内感染源検索を実施し、口腔内清掃や必要時抜歯等の処置を行っています。また口腔粘膜炎等、口腔内有害事象発現時には早期から適切な対応をしています。

③緩和ケア…特に終末期の患者さんは口腔内の乾燥や口腔カンジダ症、口腔内出血等様々なトラブルを抱えています。出来る限り苦痛を緩和出来るよう、歯科衛生士による口腔ケア介入や保湿剤等対症方法を提案させて頂いています。

抗癌治療の種類、有無に関わらず、患者さんが出来る限りスムーズに治療や療養していただけるよう、お手伝いさせていただければと思っております。口腔内の事でお困りの事がございましたら口腔外科まで併診をお願い致します。なお、当科は歯科ではありませんので、一般の歯科治療(詰め物が取れた、入れ歯が合わない等)は対応出来ませんのでご了承下さい。ご不明な点はお問い合わせください。

文責 口腔外科 歯科衛生士 最上 貴生子

お知らせ

緩和ケア勉強会：2020年2月17日(月)、25日(火) 17:45~18:45 ※両日とも同じ内容です。

「エンゼルケア～up to date～」講師：若林 奈津子(緩和ケア認定看護師) 場所：講堂棟2階 講堂1

対象者：医療従事者その他ご興味ある方 主催：緩和ケア委員会・看護管理室